



●ひともっこ山

筑前国分尼寺跡

●衣掛石 ●衣掛天神

水城跡

筑前国分寺跡

文化ふれあい館

ヲモナ石

横岳崇福寺跡

太宰府天満宮

西鉄太宰府駅

●伝衣塔

●宝満隠し
稲子地蔵

弘法水

朝日地蔵

大宰府政庁跡

●玄防墓

●猿澤池

●神牛塚

●観世音寺

●曠路美井

●苜蓿の関跡

●学校院跡

太宰府市役所

●金掛けの梅

●天神の森

西鉄都府楼前駅

西鉄五条駅

●血方持さま

●田中の森

●幸橋

●紅姫供養塔

●晴明井

●榎社

●三条公の松

●鶴の墓

●隈麿墓

●通古賀の飛梅

●紅姫墓

歴史の道

—ふらっと訪ねる伝説地—

げんぼうのはか
〈玄防墓〉



観世音寺造営を命じられた玄防は、観世音寺の落慶供養の日に悪霊によって殺されたという。バラバラにされた体のうち、首は奈良興福寺に、胴体はここに葬られたと伝えられている。

こうぼうすい
〈弘法水〉



弘法水とは池の傍らに弘法大師と観音菩薩の石像が立っていること由来する。また、観世音寺の山号「清水山」のいわれとなった場所といわれている。

あさひじぞろ
〈朝日地藏〉



横岳崇福寺を創建した湛慧が、鬼すべの鬼にされ憤慨し、穴に籠もってしまった。ここは読経をしながら息絶えてしまった湛慧を手厚く葬り祀ったところと伝えられている。

しんぎゅうづか
〈神牛塚〉



菅原道真の亡骸を運んだ牛が墓所へ行く途中、動かなくなった地が現在の太宰府天満宮である。この地は、その帰道、牛が突然倒れて死んでしまい、憐れんだ人々がその牛を葬り、塚を建てて供養したところと伝えられている。

かねかけの梅
〈金掛けの梅〉



室町時代、大旱魃のとき人々を救った古川家は家運が傾いた。家運再興を祈ったところ、白髪の老人が夢枕に現れ、その老人のお告げどおり、庭の梅に黄金の入った袋が掛けてあったと伝えられている。

ちけもち
〈血方持さま〉



平安時代、婦人病に苦しんでいた人が菅原道真の助けによって治ったという。ここは、その人の墓所といわれ、婦人病に靈験あらたかであるといわれている。

べにひめのはか
〈紅姫墓〉



菅原道真の娘である紅姫の墓または供養塔と言われている板碑である。表面には仏を表す4つの梵字が刻まれている。また、榎社境内にも紅姫の供養塔がある。

せいめいのい
〈清明井〉



陰陽師の安倍晴明が開いたと伝えられる井戸で、どんな日照りにも濡れることはないと云う。この井戸の水を飲んだり、出産時に使うと安産するという信仰がある。

くまろのはか
〈隈廬墓〉



隈廬は菅原道真が大宰府に下る際、同伴を許された幼い2人の子のひとり、道真の子供の末っ子と伝えられている。大宰府に着いた翌年に病にかかり急逝し、この地に葬られたと伝えられている。

さいわいのほし
〈幸橋〉



榎社の北側の小川に架かっていた小さな石橋で、天正7年(1579)秋月種実、筑紫広門らが岩屋城を攻めた時、高橋氏の家臣、関内記が奮戦したところと言われている。江戸時代から名所として知られていた。

べにひめくようとう
〈紅姫供養塔〉



紅姫の墓または弁の君の墓と言われている石仏である。高さ約1m程度の石に半肉彫りの阿弥陀来迎像を刻んでいる。造営時期は中世と考えられる。ここに移される前は、どんかん道沿いのクスノキの下にあった。

つる
〈鶴の墓〉



飛騨の匠が、木で大きな鶴を作った。匠を乗せた鶴は唐(中国)まで飛んでいったという。ここはその鶴が落下し、埋葬されたところと伝えられている。

とびうめ
〈通古賀の飛梅〉



菅原道真の配所に植えられていた飛梅は、太宰府天満宮の本殿前に移された。もと植えられていた配所にはその実が植えられ、芽生えたのがこの梅と伝えられている。

さんじょうこう
〈三条公の松〉



太宰府に遷っていた三条実美は、宝満山に登った際、小さな松を持ち帰った。慶応3年(1867)12月京都へ帰る際、歌をそえて世話になった陶山一貫に記念として与えた。

たなか
〈田中の森〉



虎丸長者と金持ち比べをした田中長者で知られる田中熊判の墓といわれる所で、現在は、枝を落とされ小さくなった大木と石碑があるだけである。

かきや せきあと
〈苺萱の関跡〉



平安～戦国時代にかけて大宰府の入口に設けられた関所で、古来より歌枕として知られている。この関守だった苺萱道心と石堂丸の説話は、愛別離苦の日本の悲劇の源泉として全国に知られていた。

【地図に掲載しているそのほかの伝説地】

- 〈ひともっこ山〉 水城を造っていた人々が、その完成を知って運んでいた土を投げ出したためできた小山といわれている。今は残っていない。
- 〈衣掛石・衣掛天神〉 菅原道真が脱いだ衣を掛けたといわれる石と道真を祀る神社。
- 〈宝満隠し〉 街道から宝満山が一時見えなくなるため言われるようになった丘である。昔、2人の侍が宝満山が見えない程の山があるかないかで言い争い、果たし合いでやってしまったという。
- 〈稲子地藏〉 宝満隠しの麓にあり、苺萱道心の身代わりとして敵に倒された侍女稲子を祀る地藏である。
- 〈天神の森〉 菅原道真が腰掛けたという石と小さな竹ヤブがあった。
- 〈ヲモナ石〉 大宰府政庁の鬼門の方角に置かれた塚という。
- 〈伝衣塔〉 菅神が聖一國師に託した僧衣を取めた場所といわれている。
- 〈曠路美井〉 道真の亡骸を運んでいた牛が、疲れのため動かなくなり、この井戸の水を飲ませたところ再び動き出したという。今は残っていない。